

事業名	担当
仙白園プロジェクト・人	若林区中央市民センター（区拠点館）
1 事業の目標（ねらい）	
<p>（全市共通） 若者の地域づくり活動への参加や、様々な人々との学び合いを通して、身近な地域をより良くすることへの意識を高め、自発的・主体的に行動しようとする人づくりを推進する。</p> <p>（若林区） 自主的に考え、より主体的に動くことができる若者を育成する。</p>	
2 事業内容（手法）	
<p>（1）対象者 10代後半～30代程度（高校生や大学生等）</p> <p>（2）登録者数（令和3年度） 21名 高校生3名，大学生14名，大学院生1名，社会人3名</p> <p>（3）活動内容 毎月1回から2回程度</p> <ul style="list-style-type: none"> ・畑づくりや野菜づくりを通しての地域貢献活動 ・収穫した野菜を地域の子ども食堂へ譲渡 ・若林区の魅力を発見・体験・発信する活動 ・地域のイベントでのボランティア活動 ・ビーチクリーンや地域清掃 ・「仙台・絆サイダー」を販売，売り上げ金の寄付 ・子ども参画型社会創造支援事業「チャイルドボランティア チャボ！」やジュニアリーダー若林区連絡会「田んぼっ区」と合同での研修会（植樹活動やデイキャンプ，地域清掃など） <p>（4）広報</p> <ul style="list-style-type: none"> ・チラシの配布（区内市民センター） ・ポスターの掲示 ・ホームページに掲載 ・登録メンバーによる口コミ ・Instagramの活用 	
3 新型コロナウイルスによる影響	
<ul style="list-style-type: none"> ・飲食を伴う活動を自粛した。コロナ前は収穫した野菜を調理し，地域の方々に振る舞っていた。 ・大学の講義に参加し，学生に事業の紹介する機会がなくなった。 ・まん延防止等重点措置や緊急事態宣言期間中の活動を中止とした。 	

4 令和4年度の取組み（予定）

- ・若者の意見を取り入れ，地域貢献，社会貢献する活動を企画，運営する。
- ・畑で，うねづくり，種まき，苗植え，収穫，草取り等の活動を通して，様々な人々と交流する。
- ・「仙台・サイダー」を販売し，売上金を寄付する。「わたしのふるさとプロジェクト」で主催する，東日本大震災追悼行事「鎮魂の花火」の打ち上げ資金にしよう。
- ・子ども参画型社会創造支援事業「チャボ！」とジュニアリーダー若林区連絡会「田んぼっ区」と連携し，ビーチクリーンやデイキャンプ等の合同研修を実施する。
- ・「荒町元気広場」を活用し，（仮）「大学生が考える，児童会祭りin元気広場」を企画，運営する。

5 これまでの経緯（成果）

【成果】

- ・畑での活動を通して，畑サポートの地域住民や小中学生ボランティア「チャボ！」のメンバーとの異年齢間交流により，楽しく活動することができた。自分たちで育て，収穫した野菜を子ども食堂に譲渡することで，達成感や充実感を得ることができた。
- ・小中学生ボランティア「チャボ！」・中高生ボランティアのジュニアリーダーと合同でビーチクリーンや植樹活動など，自分たちにできる地域貢献を行い，充実感や達成感を味わった。沿岸部での活動を通して震災について学ぶことができた。また，合同で研修を行うことで，各年齢段階にあった事業があることを紹介する機会となった。
- ・サイダー販売を通して，六郷東部地区の交流やにぎわい再生を目指す「わたしのふるさとプロジェクト」を応援しようという気持ちがさらに強くなった。
- ・若林区で活躍する方々に出会い，話を聞くことで，その人たちの生き方や温かさ，地域への思いなど，たくさんのことを学んだ。「自分もこんな大人になりたい」「これからも地域が明るくなるようなことを行いたい」「誰かの役に立てることがあるのなら行動したい」など，体験を通して「気付き」や「学び」を得て，そこから実際の地域貢献活動につなげることができた。

6 課題・改善点（評価）

【課題】

- ・外での活動は，天候に大きく左右される。
- ・新型コロナウイルス感染拡大防止のため事業を数回中止とした。
- ・学生は学業やアルバイト等で忙しく，参加人数が著しく少ない時もあった。
- ・収穫した野菜を調理して，地域の方へ振る舞うなどの，飲食をともなう活動ができなかった。
- ・若林区の交通の不便性から，活動場所までの移動が困難であった。

7 今後の展開・方向性

様々な出会いと活動から，たくさんのことを学び，そこから自分たちにできる地域貢献は何かじっくり考えていた。

また，若林区の沿岸地域に足を運ぶことで，震災復興について改めて考える機会となった。さらに，若林区で活躍する大人の話聞くことで，将来自分が地域や社会で活躍できる大人になりたいという思いが強くなった。

これまでの取組を大切にしながら，新しい発想も取り入れていきたい。話し合いの中で，国連で掲げている持続可能な開発目標の「SDG s」にふれた意見があった。今後も参加する若者たちの「気付き」や「学び」を大切にし，自分たちが考える地域貢献，社会貢献活動につなげていきたい。